

論文審査の結果の要旨

平成 30 年 2 月 14 日

申請者：罗 丽杰

論文題目：茨木のり子・石垣りんの表現空間と戦後女性詩の新境地

敗戦の廢墟から立ち上がって、女性詩人として誰によりもいち早く出発し、戦後に最も知られ読まれた二人の女性詩人・茨木のり子と石垣りんを取り上げて、詩人の全体像をそれぞれ明らかにするとともに、詩人論と作品論を掘り下げて細かく分析し、女性におけるジェンダー問題や女性性を含む広く展開して論じた。

同世代の詩人として茨木のり子と石垣りんは、戦争→敗戦→復興→経済成長期→バブル崩壊という時代の流れの中で、ともに生き、ともに思考して詩を書いてきた。茨木の場合は「社会派」として知られ、詩作品に「抒情性」もあると言われていることに対して、表現の深さとポエジーの深遠さをあまり深く入り込まれないように見えるが、石垣りんの場合は社会派の一面があるように見えると同時に、それは人間社会の奥底で自分の生きる経験と生活感を生かして、深く深くポエジーに潜む詩の本質を表現しようとしている、自分なりの「詩歌宇宙」を構築している。これらの相違点をしっかり分析し、論じられている。

ふたりとも女性であることを主眼として、テキスト（二人の詩作品）分析と時代背景との関係性を見事に把握している。茨木の場合は外来概念として実存主義との影響関係を解明する一方、石垣の場合は日本伝統文化にある「山姥」がどういうふうに詩人の思想と詩句に影響したかについて述べた、その論述と分析はとても新鮮だった。特にジェンダーと女性が現代社会における諸問題に関しては、少しジェンダーという観点に左右され過ぎているのではないかと思われるが、それぞれの作品群を通して、ふたりは戦後の女性詩人として切り拓いた表現空間の輪郭を描いているという視点と論点も興味深く示されており、女性性と女性表現については特に力を入れて論じられており、研究の更なる深まりを期待したい。

主査： 人文科学研究科 田 原
副査： 人文科学研究科 三木 紀人
副査： 人文科学研究科 岡田 美也子
副査： 大連外国語大学 劉 利国